



シラミって、何のことなの

血を吸う2～3ミリメートルぐらいの、小さいこん虫

人につくシラミでよく聞くのは、アタマジラミで、かみの毛にくっつき、頭の血を吸います。シラミのついた友だちと頭をくっついたり、同じブラシやタオルを使ったりすると、シラミが移ってきます。頭がやたらにかゆくなり、かみの毛に、小さい白い「ふけ」のようなものがふえてきたら、ご用心。その白い「ふけ」のようなものが、引っばっても、なかなかとれなかったら、シラミの卵です。かゆいのは、血を吸われたからです。1ぴきのメスは、1回につき、5～6個の卵を産み、卵は、1週間ぐらいでかえります。

シラミは種類によって、くっつく動物がちがう

シラミは、種類によって、くっつく動物が決まっています。人につくシラミは、イヌやネコにはつきません。人につくものは、頭につくアタマジラミ、下着のぬい目などにかくれて、体の血を吸うコロモジラミ、下半身の毛につくケジラミ、の3種類があり、それぞれ、くっつく場所がはっきり分かれています。昔から、戦争中などにコロモジラミがふえ、これが、「発しんチフス」という病気をうつす原因になり、たくさんの方が、この病気で死にました。

シラミの退治法

あかやよごれ、湿気と暖かい体温がある所は、シラミには、とてもすみよい場所です。ですから、頭をシャンプーでよく洗いましょう。成虫や幼虫は、毎日、何回も目の細かい「すきぐし」を使って、すきとりましょう。かみの毛についた卵は、切り取るか、専用の薬を買ってきて、退治するのが早道です。（監修・中山 周平）

